



## 後藤滋樹

ごとう・しげき：早稲田大学 理工学部  
情報学科教授。ISOC理事、APNG  
議長、MINC理事を歴任。現在は  
APAN副議長としてアジア太平洋の  
インターネット界で活躍している。

goto@goto.info.waseda.ac.jp

## 上海のリニアモーター

成田から上海までの飛行時間は時刻表の上で3時間である。実際に飛んでいる時間はもっと短い。距離は約1700kmだ。上海を中心に考えると、東京よりも遠い中国の国内の都市がたくさんある。ちなみに上海から北京までは1100kmだ。

上海の新空港(浦東)から街中までは車で50分かかかる。ここに来年には磁気浮上式のリニアモーターカーが登場する予定だ。実際に高速道路に沿って線路が完成に近付いている。市内から空港までの所要時間は7分だという。磁気浮上式のリニアモーターが営業運転するのは世界で初めてのことだ。

さて現実に戻って、私は空港から40分を費やして上海市北部の蘭生大酒店(ホテル)に到着した。さっそくチェックインする。部屋の設備は上々だ。ただし宿泊する階の廊下の壁が全面的に改修中で、下塗りの塗装が目に見える。刺激臭もある。こんな状態でも客を泊めるのかなあ、と少し心配になる。

## ホテルの客室も無線LAN

蘭生ホテルではアジア太平洋高度ネットワーク(APAN )の会議が一週間にわたって開催された。私は会議の事前準備を手伝っていたから、会議室で無線LANが使えるのを知っていた。実際にはホテルの客室にも無線LANの信号が強力に届いている。私の客室は21階だから、そこまで会議室から電波が届いているとは考えにくい。現地の大学の友人に聞くと、会議室は復旦大学のネットワークに接続している。客室は商用のChinanetで、ホテルが試用中のもらしい。

いずれにしても会議室でも客室でもネットワークへの接続は良好である。3つの会議室には、いずれもPolycomのテレビ会議システムが備えられていて、上海の現地に来ないインターネット経由の講演者が何人もいた。ただし遠距離からの参加では時差が問題だ。上海の午前のセッションが米国東海岸では夜になる。時差があることは皆が意識するのだが、実は日付けが違うところに本当の落とし穴がある。私が司会をしたセッションでも米国東海岸の講演者が画面に登場しない。彼のオフィスの廊下の電灯が鮮明に映るだけである。あとからお詫びのメールが届いて、やはり日付けを間違っていたという。

 www.apan.net

## 上海浦東地区の夜景

上海の街は活気がある。どこに行っても人が大勢いる。自転車がたくさん走っている。車の渋滞もある。上海の街では租界時代の歴史的な建物が保存されているかと思うと、浦東新地区には世界で3番目に高い東方明珠のタワーがある。このハイブリッドな感覚がおもしろい。浦東地区の夜景は香港のような雰囲気がある。

その東方明珠のタワーに登るべく、旧市街側の黄浦公園に行く。ここから外灘観光トンネルで川底をくぐって浦東に渡る。トンネルの中を歩くのではない。スキー場のゴンドラのようなカプセルに数人ずつ乗る。トンネルの壁面がテーマパークのアトラクションのようにピカピカ光る。このカプセルの料金が30元(約450円)というのは高い。地下鉄で隣の駅に行くのは2円で済む。このような場面ではタイムマシンに乗ったような落差を感じる。

東方明珠タワーは夜10時30分まで展望フロアに登れるが、終了時間が近づくと上から2番目の珠だけが行けず、それでも我慢する。なにしろ世界で3番目のタワーなのだ。

## 没有(メイヨウ)でめしめし

私はタワーの営業時間に間に合って、上海の想い出ができた。私の上海での教訓は「営業時間に注意すべし」というものだ。上の東方明珠とは別の夜に、地下鉄を乗り継いでホテルに帰ろうとした。上海の地下鉄は立派だし安い。私は伊勢丹の近くの石門一路駅で地下鉄に乗り、人民公園駅で乗り換えて上海火車総駅まで到着した。

さて、上海駅で三号線に乗るために切符を買いたいのだがカウンターの係員が売ってくれない。「没有(メイヨウ)……」と言う。こちらが中国語を十分に理解できないと見ると、係員は説明の札を示す。どうも運転が終了しているらしい。これが夜の9時半を少し回ったくらいだ。

しかたがないので地上に出ると、そこは鉄道の上海駅の裏側らしい。ホームが見えるものの、高い塀の向こうだ。2、3の屋台の店が出ているが、タクシーを拾うような広い道ではない。地下道が開まるとマズイ。慌てて走って上海駅の正面と思われるあたりで地上に出る。にぎやかな街の風景で、タクシー乗り場に行列ができています。

レストランでも没有(メイヨウ)に出会う。メニューにあっても料理があるかどうか油断をしてはいけません。人気の料理は売り切れて没有となる。





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)